



埼玉医科大学短期大学

看護学科

専攻科 [母子看護学専攻]



公式Webサイト



建学の精神

“一滴の水の大切さ”がわかる医療人へ

- 一. 真に求められる、人間性、技術共に優れた医療技術者の育成
- 二. 自ら学び、努め、以て病める者への労りと奉仕心の育成
- 三. 師弟同行の学風の育成

本学の三つの方針

ディプロマポリシー（卒業・修了認定・学位授与の方針）

本学は建学の精神のもと、医療技術に関する高度の理論と技能を教授研究し、豊かな教養と人格を備えて、国民の保健医療向上に寄与することのできる医療技術者を育成することを目的として教育課程を編成している。このカリキュラムを履修し医療技術者として必要な次の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・協働性」を身につけた学生には卒業・修了を認定し、看護学科は短期大学士（看護学）の学位を授与する。

学 修 成 果	知識・技能	1) 人間を総合的に理解できる。
		2) 科学的な知識・技術を身に付ける。
	思考力・判断力・表現力	1) 知識・技術・態度を統合して看護が実践できる。
		1) 高い倫理観をもって看護者として自己成長できる。
	主体性・協働性	2) 社会の変化に対して適応できる。
		3) 自己の責任を自覚し、問題解決のために積極的にさまざまな立場の人と協働できる。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

豊かな教養と看護の専門的知識を身につけ、地域の保健医療に貢献できるよう、教養教育の充実、双方向型教育、早期からの臨地実習、臨床指導教員の配置などきめ細かな学習支援を心がけた教育を実施している。

アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

看護の対象となる人々の信頼を得られる看護師・助産師の育成を目的としているため、専門的な知識・技術と同時に高い倫理観や人の痛みがわかるような人間愛を兼ね備えた医療人を目指す学生の入学を希望している。

学長メッセージ



本学の目的は、患者様やご家族に信頼していただける医療人を育成することです。現代社会のめざましい進歩発展は、医学の分野にも著しい進歩をもたらしました。医療の内容もますます高度化、複雑化し、かつ専門的に分化してきました。当然、看護師・助産師にも、より高度な専門知識と技術が要求されております。しかし知識・技術に優れているだけでは患者様やご家族の信頼をいただくに充分とはいえません。同時に、思いやりの心をもてること、人の心の痛みがわかることが重要です。知識・技術と人を思いやる心を兼ね備えた医療人を目指す方々の夢の実現をお手伝いしたいと思います。

埼玉医科大学グループ

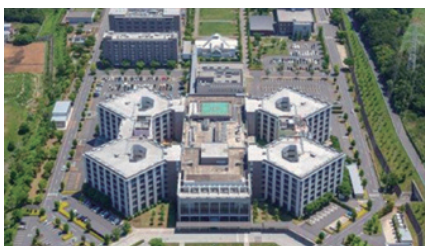
埼玉医科大学グループの実習病院で最先端の知識・技術を習得。質の高い学びで就職率100%を実現。



埼玉医科大学病院



埼玉医科大学
総合医療センター



埼玉医科大学
国際医療センター



丸木記念
福祉メディカルセンター



看護学科

教育理念

看護学科の教育は、優れた看護専門職業人の育成を目指している。看護専門職には、生命に対する深い畏敬の念とそれに基づく確かな看護観、教養ある社会人として豊かな人間性と良識を持って積極的に社会に貢献する姿勢が望まれる。また、科学技術や医療の著しい進展に対応しうる絶え間ない努力が求められている。すなわち、看護の学問的研究を推進する能力、新しい知識と技術に裏づけられた看護実践能力が求められる。さらに本学は、高度医療機関であり、地域医療の中核的役割を担っている埼玉医科大学病院に併設しているため、学んだ成果を地域に還元することを自らの社会的役割として自覚できる人材を育成しなければならない。以上の観点から、教育目的・目標を右記のように設定している。

教育目的

看護専門職として、看護に関する専門的知識と技術の教育研究活動を通じ、生命に対する深い畏敬の念とそれに基づく確かな看護観を持ち、また、教養ある社会人として、豊かな人間性と良識を持って積極的に社会に貢献できる看護師を養成する。

教育目標

- ① 幅広く豊かな教養を身につけた社会人になる。
- ② 社会の変化に対応しつつ、生涯に亘って社会に貢献できる看護の専門職業人になる。
- ③ 看護の専門家として地域の医療水準の向上に貢献できる人となる。

※「看護学科の三つの方針」および「学修成果」はWebサイトをご参照ください。

充実の支援体制

アドバイザー制度

教員が進学、就職、学生生活をサポートするアドバイザー制度。全在学学生を学年ごとに8～10名程度のグループに分けて、アドバイザー（教員）を2～3名ずつ配置。学生は短期大学での学びや日々の生活、健康などさまざまな相談事をアドバイザーに相談し、適切なアドバイスを受けることができます。

奨学金

看護学科の全学生（留年・休学期間は除く）を対象に奨学金を貸与しています。なお、本学関連の医療機関に就職して3年間看護業務に従事し、高度な専門的能力を身につけるための研鑽を積んだ場合、奨学金の返還は実質免除されます。

国家試験対策

国家試験委員会（学生と教員で構成）を中心に、入学年次から国家試験の情報や問題に触れ、国家試験の学習の基本から心構えの構築を行っています。受験年次には合格に向けた国家試験の学習を効率よく進めるためのガイダンス、定期的な模擬試験受験結果の動向や学生の学習傾向を見極め、国家試験委員の教員とアドバイザー教員が連携し、個別の学習相談に対応しています。

学生寮（女子寮）

本学ではキャンパス内に女子寮を設けており、遠方からの入学者が優先的に入寮できます。1人部屋と2人部屋（いずれも洋室）があり、入寮時は原則、2人部屋に入ることになります。教員の指導の下、学生主体で寮運営を行っています。また、寮の各フロアには自習室や談話室など、共有設備が充実。寮生活を通して自主性や協調性、コミュニケーション能力など、豊かな素養が育まれます。



年間行事

本学では、豊かな感性と表現力、他者との協調性やコミュニケーション能力を身につけるため、年間を通じてさまざまな行事が予定されています。遠光祭（大学祭）では、学年を越えた関わりを持ち、看護に必要な協調性を学ぶことができます。看護実習では、埼玉医科大学の関連病院や地域の施設で実習を行います。

年間行事の詳細はこちら



◆修業年限 3年 ◆定員 100名

◆取得資格および学位

- 看護師国家試験受験資格
- 保健師・助産師学校の受験資格
- 大学への編入学の受験資格
- 短期大学士（看護学）

基礎知識から専門的な技能まで、段階的に修得できる3年間のカリキュラム

カリキュラムの
詳細はこちら



1・2年次は幅広い教養や看護の基礎を修得し、3年次は臨地実習でこれまでの学びを統合します。

高い専門性と、幅広い視野、総合的な判断力を培います。

分野	・科学的思考の基盤 ・人間と生活・社会の理解	・人体の構造と機能 ・疾病の成り立ちと回復の促進 ・健康支援と社会保障制度	・ライフサイクルと生活の場に応じた看護の方法 ・看護の統合
目的	科学的思考力およびコミュニケーション能力を高め、感性を磨き、自由で主体的な判断と行動をする能力、人間と社会の仕組みを幅広く理解する能力、社会の変化に対応する能力を養います	科学的根拠に基づいて看護を実践するための基礎的能力を養います 健康・疾病・障害の状態に応じた社会資源を活用するための基礎的能力を養います	保健・医療・福祉システムの中で、専門職として看護の独自の機能と役割を理解し、個々の対象の状況に応じた看護実践に必要な基礎的能力を養います 広い視野に立ち、社会情勢の変化に目を向け、主体的に看護を追究する姿勢を養います
1年次	・社会人基礎I(野外活動) ・社会人基礎II(ボランティア活動) ・コミュニケーション英語I ・ヒトの生物学 ・情報科学 ・化学の基礎 ・物理学の基礎 ・教育学 ・法学 ・社会学 ・生涯発達論	・生化学 ・栄養学 ・微生物学 ・人体の構造と機能I ・人体の構造と機能II ・病理学 ・薬理学 ・疾病治療論I ・疾病治療論II ・疾病治療論III ・健康と運動 ・関係法規 ・社会福祉	・看護概論 ・地域・在宅看護概論 ・成人看護概論 ・老年看護概論 ・小児看護概論 ・母性看護概論 ・精神看護概論 ・看護倫理 ・看護の方法I(看護実践の基盤となる技術) ・看護の方法II(日常生活行動への援助技術) ・看護の方法III(看護過程の活用方法) ・看護の方法IV(病理の状態に応じた日常生活行動への援助技術①) ・基礎看護実習I(看護師の役割の理解) ・地域・在宅看護I(地域で暮らす生活者の看護) ・地域・在宅看護実習I(地域で暮らす生活者の理解) ・成人看護I(慢性期看護)
2年次	・健康スポーツ ・ドイツ語の基礎 ・統計学入門 ・心理学入門 ・現代社会と心理学 ・哲学 ・コミュニケーション英語II ・文学 ・論理学の基礎	・疾病治療論IV ・疾病治療論V ・疾病治療論VI ・疾病治療論VII ・公衆衛生学	・看護の方法V(病理の状態に応じた日常生活行動への援助技術②) ・看護の方法VI(看護過程を活用した日常生活行動への援助の方法) ・基礎看護実習II(基本的欲求の状態に応じた日常生活行動への援助) ・地域・在宅看護II(地域で生活する療養者と家族への看護) ・成人看護II(周手術期看護) ・成人看護III(がん看護) ・老年看護(高齢者の心身機能の変化と生活機能を支える看護) ・小児看護(発達段階と健康レベルに応じた子どもと家族の看護) ・母性看護(周産期にある対象とその家族への看護) ・精神看護I(精神症状に応じた看護) ・精神看護II(精神障害をもつ対象への看護) ・地域・在宅看護技術 ・成人看護技術 ・老年看護技術 ・小児看護技術 ・母性看護技術 ・災害・救急看護 ・看護管理 ・国際医療福祉事情 ・看護学セミナー
3年次			・地域・在宅看護実習II(在宅療養者の看護) ・成人・老年看護実習I(急性期看護) ・成人・老年看護実習II(慢性期もしくは終末期看護) ・老年看護実習I(入院を必要とする高齢者の看護) ・老年看護実習II(多様な場で生活する高齢者の看護) ・小児看護実習I(入院を必要とする子どもの看護) ・小児看護実習II(地域で生活する子どもの看護) ・母性看護実習 ・精神看護実習 ・統合実習 ・看護技術の統合 ・看護研究

Student's Voice

在学生の声



看護学科 3年生

医療者になる未来を後押ししてくれる

普段の演習や講義ではグループワークが多く、早い時期から医療の場での協調性・コミュニケーションの重要性を実感できます。また本学は埼玉医科大学の関連病院が併設されていて、臨地実習では関連病院を訪れることもあります。そうした現場で働いている先輩方から指導していただく中で、一人前の医療者として成長したいと強く意識するようになりました。

先生方も日常生活や将来に関する話を親身になって聞いてくださいます。医療者を志す私にとっては、将来を見据えて学業に専念できる、理想的な環境です。



看護学科 2年生

チーム医療の一員として大きく成長できる場所

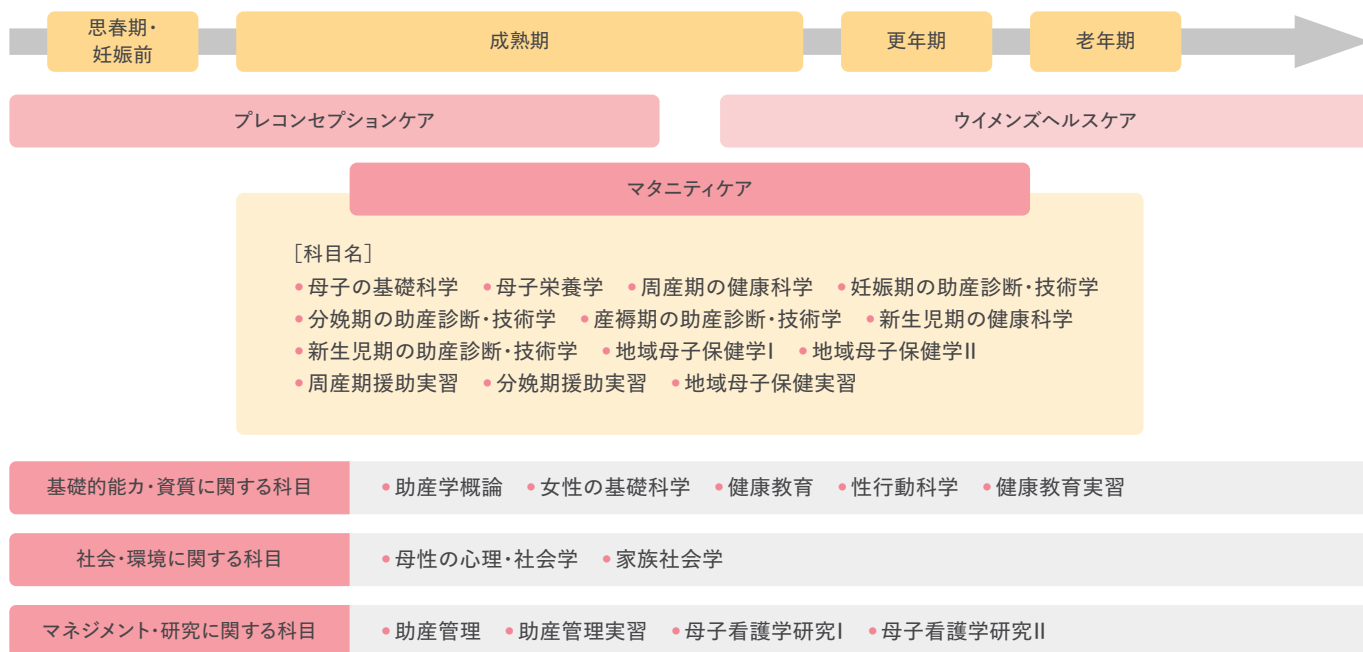
授業では、看護師として必要な主体性・協働性を身につけるため、グループディスカッションが盛んに行われます。自分が調べたり学んだりした内容を他者に伝えることで、理解が深まると同時に、意見交換を通して新たな知見が得られます。実習では一つひとつの授業で得た知識を実践しつつ、患者様にとって最適な援助方法とは何か、多面的に考えて判断する力や表現力を学びます。

勉強に行き詰まったり、日々の生活で悩んだりすることもあります。先生方が親身になって相談に乗ってくれるので、安心した大学生活を送ることができます。

専攻科(母子看護学専攻)

高い専門知識と実践能力を養う
1年間のカリキュラム

カリキュラムの
詳細はこちら



教育理念

埼玉医科大学短期大学の教育の基本姿勢は、一般社会人としての幅広く豊かな教養と良識を持ち、生命に対する深い畏敬の念と人類愛を持って、積極的に社会に貢献できる人材を育成することである。母子看護学専攻の教育は医療全般にわたる広範な視野と高い見識を持ち、急速かつ多様に変化しつつある社会状況を的確にとらえ、対象者および家族・地域に対して母子看護専門職としての社会的役割を担う人材を育成することである。さらに、本学は高度周産期医療機関であり地域医療の中核的役割を担っている埼玉医科大学病院に併設しているため、高い専門性を活かし専門的指導的役割を果たせる人材を育成しなければならない。以上の観点から教育目的・目標を次のように設定している。

教育目的

看護基礎教育を基盤として、母子看護学に関する教育研究活動を通し、専門的知識と技術を深く身につけ、社会に貢献できる助産師を養成する。

教育目標

- ① 広範な視野と高い見識を持った社会人になる。
- ② 多様に化する社会状況および価値観を的確にとらえ、高い専門性と指導的役割を担い生涯に亘って社会に貢献できる母子看護専門職業人になる。
- ③ 母子看護専門職として周産期医療の水準・向上に貢献できる人となる。



◆修業年限 1年 ◆定員 20名

- ◆取得資格
- 助産師国家試験受験資格
 - 受胎調節実地指導員申請資格
 - 日本周産期・新生児医学会公認
新生児蘇生法講習会(Aコース)の受講修了
および試験受験資格

三つの方針

ディプロマポリシー

専攻科の課程を修め、授業科目区分毎の所定の単位を修得し、且つ修了要件の32単位以上を修得したのものには、全ての女性および周産期にある母子とその家族に対して健康を支援し、地域母子医療・保健の向上に寄与できる助産師に相応したことを認め、修了を認定する。

カリキュラムポリシー

女性と子どもの健康的な生活を支援するための基本理念と知識、周産期にある母子と家族のケアに必要な助産診断と実践のための基礎的能力を修得し、地域社会に貢献できる助産師を養成する教育課程を編成する。

- ① 基礎助産学:女性と子どもの健康を支える基本理念と知識・技術を養う。
- ② 助産診断技術学:助産学領域における専門的な実践能力を養う。
- ③ 地域母子保健:地域の特性を知り、助産師として多職種と協働できる能力・態度を養う。
- ④ 助産管理:助産管理者として必要な基礎的知識と能力を養う。
- ⑤ 助産学実習:知識を統合し、ウェルネスもしくは問題解決の視点で助産過程を展開できる能力を養う。

アドミッションポリシー

- ① 人間に対する関心を持ち、生命の尊厳を重視できる人
- ② 責任感と倫理観を備え、社会性を兼ね備えた人
- ③ 生涯学習を行い自己研鑽することができる人
- ④ 看護師として、基礎学力を有している人
- ⑤ 協調性があり、高いコミュニケーション能力を備え、多職種連携に意欲を持つ人
- ⑥ 保健医療分野の指導的役割を担う意欲のある人
- ⑦ 課題意識を持って科学的に探究し保健・医療に貢献しようとする意欲のある人

年間スケジュール

Month	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
行事	入学式	健康診断 防災訓練			夏季休業			遙光祭		冬季休業	国家試験	修了式
その他	新入生 オリエンテーション											
講義												
演習												
試験					単位認定試験				単位認定試験			
実習			5週(週1回)				13週					

Student's Voice

在学生の声



専攻科

助産師の自覚を養う、濃い1年間

以前は看護師として3年間、産科病棟で勤務していました。現場での助産師の姿をみて、人が笑顔になる瞬間や人生の分岐点となる妊娠・出産に携わりたいと思い、助産師を目指すようになりました。

専攻科では知識や技術、妊産婦とその家族への支援など、さまざまなことを1年間で重点的に学びます。日々の課題はもちろん、実習では実際に産婦さんに関わり、妊娠期から産褥期までを受け持たせていただくため、着実に助産師としての自覚を身につけられます。また少人数制だからこそ、同じ目標を持つ仲間と実習や国家試験に向けて取り組むことができます。



専攻科

同じ夢を目指す仲間と高め合う日々

私の目標は、安心・安全に妊娠・出産・育児ができるよう支援し、女性や子ども、その家族にとっての幸せと一緒に考えられる助産師になることです。高度周産期医療に対応できる知識・技術を学べるほか、進路や資格取得に関するサポートが手厚いことに魅力を感じ、本学への入学を決意しました。入学後は課題や実習で忙しく、大変な事もありますが、先生方からの声掛けや友人からの励ましのおかげで、前向きに頑張ることができます。これからも同じ夢を持った同志と共に、お互いを高め合いながら充実した学校生活を送っていきたいです。

